

市民学コース 6 富士見の歴史

定員 60 人

第5回

村民、町民、そして市民 ～明治・大正・昭和・平成 の暮らし～

講師 駒木 敦子氏 雑波田城資料館学芸員

日 時 7月6日(土) 午前10時から12時
会 場 鶴瀬公民館 第3集会室
受講生数 37名

はじめに

「庶民」とは広辞苑から引用で「貴族など
に対し、なみの人、世間一般の人、平民、大衆」
つまり、我々のこと。

鶴瀬村には士族1名、その他は庶民だった。

講座では、写真で見てもらいながらふつう
の人々の生活の変遷をみる。

また元名主の横田正志氏の目録から該当箇所
の指摘を受けた。



1. 明治・大正・昭和・平成の概要

- 明治維新の政治の大改革が人々の暮らしに大きな影響を与えた

しかし、衣食住の大きな変化は1960年代(昭和期)の高度経済成長まで見られな
かった。昭和の初期まで女性は和装が多く、男性は公職者、軍人、学生服以外は和装が残る。
写真での紹介あり

- 新河岸川舟運の衰退、大正時代後期からは鉄道・陸路輸送が盛んになる
写真参照
- 戦争の影響

● 1956年（大正期）合併し富士見村の誕生。1957年日本住宅公団鶴瀬団地の入居で人口増。

・行政区割変遷表 1 ページ ・人口の推移について資料 4 ページ ・市域の村々の概況—江戸・東京の近郊農村 2～3 ページ特に男女稼を村ごとの農産品が多様 詳細は新編武蔵風土記稿、武蔵国郡村誌、富士見市史資料編、統計ふじみを参照のこと



2. 明治時代の暮らし

●村に住む人々

・ 1873年（明治6年）富士見市域の人口は5753人（大久保村一部を除く）富士見市史第5巻を参照。

・ 住民の生活状態 1872年（明治5年）窮民、貧窮民、極窮民と基準は不明だが22.8%から11.4%まで存在する。

・ 他地域からの転入者…奉公、渡り職人、芸人など

・ 娯楽…芸能・芝居興行（1878年鶴馬村）相撲興行（1875年水子村）

遊芸稼人鑑札を受けた 針ヶ谷村 神山芳之助「大力持」700貫を支える。皇太子の前で上覧する。写真紹介あり 祭り、年中行事

●国家政策により村生活への影響

・ 宗教政策の変化 修験の廃止、国家神道を進める

・歴法の変化 太陽暦の採用1872年から1873年へ(明治5. 12. 3を明治6年1月1日に) 1874年より日曜日を休みに、新年・歳暮の贈答の禁止。

・「陋習(ろうしゅう)」の追放…贈答禁止の布告、松飾り・七草がゆなど 横田家の古文書より

3. 村の「開化」～小学校の設立～

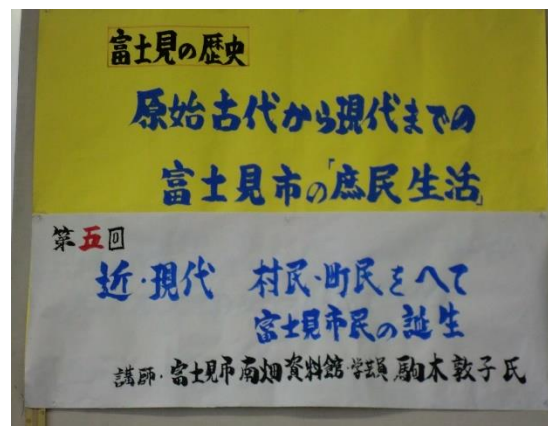
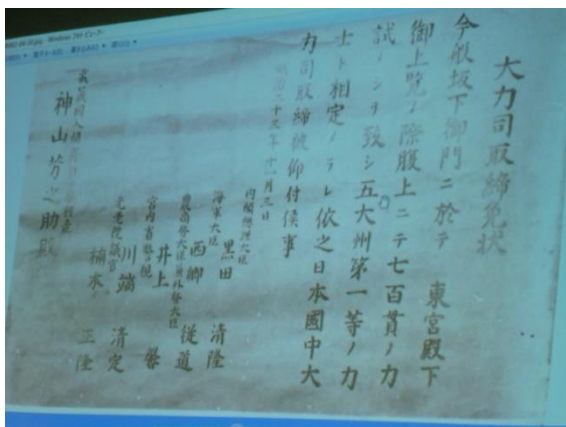
・義務教育制度のスローガン「必ず邑に不学の戸なく家に不学の人なからしめん」

・1873年(明治6年11月) 8村が連合して来迎寺(鶴馬村)に小学校を開校。翌年から2年後にかけて5校に、1877年(明治10年) 6校に

・就学率は鶴馬学校区24.6%、南畑学校区13.6%と低く、特に女子が低い。

・高い授業料、労働力確保のために普及が困難。

明治時代から昭和にかけて撮られた集合写真を多数紹介。男女比、和装か洋装化、教員・官職・軍人の服装。学生服・国民服



4. 上からの命令で作られた3つの村～鶴瀬・水谷・南畑～

・1888年(明治21年) 町村制公布、翌年施行

・政府により強制的に合併

・新村名「南畑村」をめぐる対立、代替案「南畑久保村」…大久保の地名がなくなる

5. 「大水」との戦い～1910年(明治43年) 8月10日の大洪水

・古谷村で荒川が決壊し、大水が南畑村周辺を襲う。

被害は死者6名、全壊17戸、半壊8戸、流失10戸、床上浸水は村全戸528戸。農産物ほぼ全滅。

・この大水をきっかけに河川改修を求める声が高まる。

1911年(明治44年) 3村の村長と南古谷・福岡村長と連名で新河岸川改修工事の県知事へ請願。同年に荒川放水路の工事開始。1918年(大正7年)には上流の工事に着手。堤防から撮った洪水で村の家々が水没した写真、半纏を着た人足がモッコや土嚢を

積む人力頼みの改修工事の写真。

- ・昨年集中豪雨により、発生した上州市のような水害が起きる可能性も考えられる。

- ・大字、小字(こあざ)に注目、湿地、泥田、大沼など 水に縁の有る地名は、以前より洪水などの被害の有ったところかも。

○田圃の歴史 耕地整理…区画を変えて水路を整備、水はけを検討し、話し合いを進める。

1942～1945年(昭和17～19年)戦争中、地域の女性が中心となり、円滑に進展、決定させた。

6. 大正デモクラシー

●村の交通網の発達 1914年(大正3年)東上線の開通
鶴瀬駅の傍らに記念碑を建立

- ・1922～23年(大正11～12年)若者たちの文化活動

南畑村の青年たちが中心になって同人誌(青(せい)酔(すい))の発行、大正モダニズムの影響。のちに「農民哀史」を書く渋谷定輔がいた。

- ・南畑小作争議 1921年(大正11年)に小作人89人が小作地を返還。大地主西部などに年貢米反当り2斗の引き下げを要求。認めさせた。その後も対立が続く。1年5か月継続。その間、荒川改修工事の人夫として働き、家計を維持した。

参考資料1:「農民哀史」にみるわら仕事 富士見市域の大正時代の農家の生活を知る貴重な資料

参考資料2:難波田城だより65号 南畑村片隅の今昔物語 富士見のほうき作り

○写真から見る大正生まれの女性(水谷村)の半生。衣服(野良着、ちょいちょい着《近所に行く外出着》、よそ行き)農閑期に志木の細田裁縫学校へ通う。

7. 戦時下の生活と耕地整理 前述

8. 戦後の改革 時間の関係で余りふれられなかった

- ・民主化
- ・農地解放
- ・交換分合

9. 富士見の都市化

- 1956年(昭和31年)「富士見村」誕生 3村合併

- 1957年(昭和32年)鶴瀬第1団地入居開始、村の人口1万人前後の時代に

- 1962年(昭和37年)鶴瀬第2団地入居開始。周辺に建売住宅、商店街ができる。

- 1964年（昭和39年）町制施行
- 1972年（昭和47年）市制施行
- 1977年（昭和52年）みずほ台駅開設
- 1993年（平成5年）ふじみ野駅開設

10. おわりに

・歴史モノサシ「僕は46億歳」作：豊田充穂 学研教育出版から
地球が歩んできた46億年の歴史を1年間のカレンダーに当てはめると

人間が四大文明をつくったのが。12月31日の午後11時59分を過ぎた頃、「地球を守る」と言い始めたのは1年が終わるたった1秒前のこと。

「地球を守る」とは、人間が生き続けることで、おこがましいのではありませんか？

詳しくは、難畑田城資料館に来館されるか、先生から多くの参考資料の紹介をしていただいたのでご覧ください。書名リスト参照

駒木敦子先生の専門は民俗学で、歴史上になかなか見えてこない個人、庶民の暮らしを丁寧に掬い取ることをされている。地域の人々から聞き取りや文書の調査をしながら地の声を聞き記録に取っている。今後も資料化がされる予定です。